

しんぱん
しどうようもんしゅう
新版 指導要文集

だいさんしゅう

第三章

しゆくめいてんかん

宿命轉換

ざんげ

懺悔

し
知らず、さればこの人々は懺悔の力によつて生死やはな
れけん。はたまた、ひとびと ざんげ ちから 謗法の罪は重く懺悔の力は弱くし
て、あじやせおう むくろんじとう ほうぼう つみ おも ざんげ ちから よわ 阿闍世王・無垢論師等のごとく地獄にや堕ちにけん。
しんこくおうごしよ お

(047 神国王御書

懺悔 ざんげ
680 ページー11行)

しょうごい

小罪しょうごいなれども懺悔ざんげせざれば悪道あくどうをまぬかれず、大逆だいぎやくなれ

ざんげ

つみ消

ども懺悔ざんげすれば罪つみきえぬ。

こうにちぼうごしよ

(108 光日房御書

免

懺悔ざんげ

1253

ページー9行)

じようぎう

定業すら、能く能く懺悔すれば、

よよざんげ

必ず消滅す。いかに

かならしょうめつ

ふじようぎう

いわんや不定業をや。

かえんじようごうしよ

(130 可延定業書

ざんげ

懺悔 1307 ページ 7 行

じようぎう

定業であつても、よくよく懺悔すればかならず消滅するので

ざんげ

しょうめつ

ふじようぎう

す。まして不定業がかえられないわけがありません。

だいねはんぎよう ほけきよう さ

い

しようほう

大涅槃経に法華経を指して云わく「もし、この正法を

きぼう

よ

みずか

かいげ

しようほう

げんき

毀謗するも、能く自ら改悔し、正法に還歸することあら

ないし

しようほう

のぞ

くご

ば乃至この正法を除いてさらに救護することなし。この

ゆえ

まさ

しようほう

げんき

うんぬん

故に应当に正法に還歸すべし」云々。

(151 太田入道殿御返事

おおたにゆうどうどのごへんじ

ざんげ 懺悔

1360

ページー12行)

み じゃけ しよ としひさ こころ じゃし そ つきかさ
身は邪家に処して年久しく、心は邪師に染まつて月重な
る。たとい大山は頽るとも、たとい大海は乾くとも、この
つみ き がた しゆくえん もよお
罪は消え難きか。しかりといえども、宿縁の催すところ
ろ、また今生に慈悲の薫ずるところ、存外に貧道に値遇
かいげ ほつき ゆえ みらい く つぐな げんざい けいそう
して改悔を發起す。故に、未来の苦を償つて現在に軽瘡
しゅつげん
出現せるか。

(151 太田入道殿御返事
おおたにゆうどうどのごへんじ)

ざんげ
懺悔 1362 ページ 8 行

げんしん かいげ 起

現身に改悔をおこしてあるならば、阿闍世王の仏に帰し

あじやせおう ほとけ き

びやくらい 息

しじゅうねん いのち

述

むこん

しん

もう

くらい

て白癩をやめ、四十年の寿をのべ、無根の信と申す位

登

げんしん

むしようにん

得

にのぼりて、現身に無生忍をえたりしがごとし。

(398 異体同心事

いたいどうしんじ

ざんげ 懺悔 2055 ページ 14 行)

にほん くに ひと

じぶんじしん

ほうぼう

つみ

く

あらた

日本の国の人びとが、自分自身の謗法の罪を悔い改めるなら

あじやせおう

しやくそん

きえ

びやくらい

あくそう

こうねつ

ば、阿闍世王が釈尊に帰依して白癩という悪瘡と高熱をともな

でんせんびよう

よんじゅうねん

じゅみよう

の

むこん

しん

う伝染病をなおし、四十年の寿命を延ばして、無根の信という

くらい

げんしん

さと

え

だいくどく

位にのぼって、現身に悟りを得たように、大功德をうけることがで

きるのです。